

令和7年度 山陽小野田市子ども文化ふれあい事業



日本の伝統芸能をもっと身近に感じる

能と狂言の世界 ワークショップ

と き:令和7年6月26日(木)14:00開演

ところ:不二輸送機ホール 大ホール

主 催:山陽小野田市

※この事業は、子どもたちの日本の伝統文化に触れる機会を増やすため、市内小学校の6年生を対象に鑑賞していただくものです。

◆プログラム◆

(1)能と狂言のお話、お囃子のお話

(2)各小学校児童によるお囃子体験
(笛、小鼓、大鼓、太鼓)

(3)狂言「^{ほんさん}盆山」

(4)能_(装束付舞囃子)「^{ふなべんけい}船弁慶」

◆狂言「盆山(ぼんさん)」

《出演》 ^{ぬすびと}盗人 上杉 啓太 (うえすぎ けいた)
^{しゅじん}主人 吉良 博靖 (きら ひろやす)
^{こうけん}後見 野村 万禄 (のむら まんろく)

あらすじ

ある男は世間ではやっている盆山が欲しくなり、たくさん持っている知り合いに頼みますが、ケチで一つもくれません。そこで、その知り合いの家の庭に忍び込んで、盆山を盗もうと考えます。うまく垣根を壊して忍び込むことに成功すると、物音を聞きつけた持主に気付かれてしまい、あわてて盆山の陰に隠れますが……。 (盆山とは、お盆の上に石や砂を飾りその風景を楽しむ物で、中世の日本で流行しました。)

◆能(装束付舞囃子)「船弁慶(ふなべんけい)」

《出演》 ^{たいらのとももり}平知盛 ^{おんりょう}の怨霊 森本 哲郎 (もりもと てつろう)
笛 森田 光次 (もりた みつじ)
小鼓 飯富 章宏 (いいとみ あきひろ)
大鼓 白坂 保行 (しらさか やすゆき)
太鼓 吉谷 潔 (よしたに きよし)
地謡 久保誠一郎 (くぼ せいいちろう)
今村嘉太郎 (いまむら よしたろう)

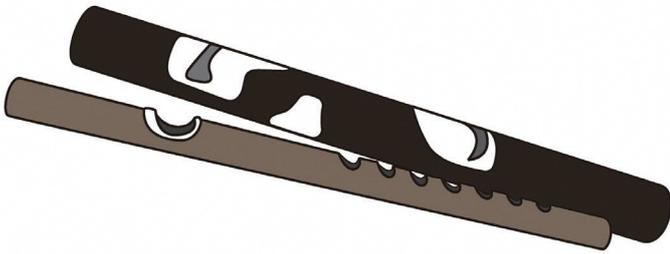
あらすじ

^{みのもの}源義経の一行が船出すると、にわかには風が変わり、激しい波が押し寄せてきます。そこへ、平知盛の怨霊が現れ、自分が沈んだように、義経を海に沈めようと ^{ながなた}長刀を持って襲いかかりますが、弁慶が ^{じゆず}数珠を ^も揉んで祈り伏せ、怨霊は次第に遠ざかってまた海の中に消えていくのでした。

◆お囃子紹介◆

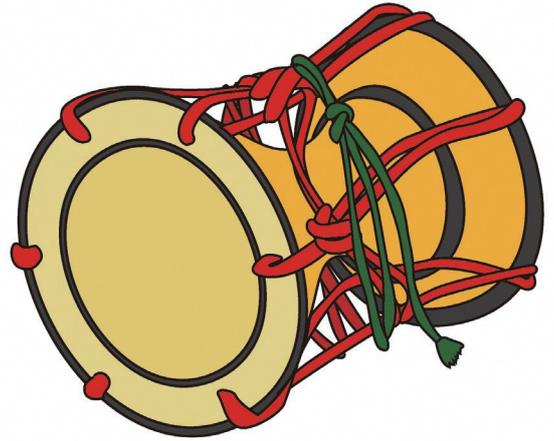
笛（ふえ）

能で使われる笛は、能管（のうかん）と呼ばれ、竹で作られています。能管は能の楽器の中で唯一のメロディ楽器です。能の笛は、一本一本、長さや太さなどに若干の差があり、音色もそれぞれに個性があります。



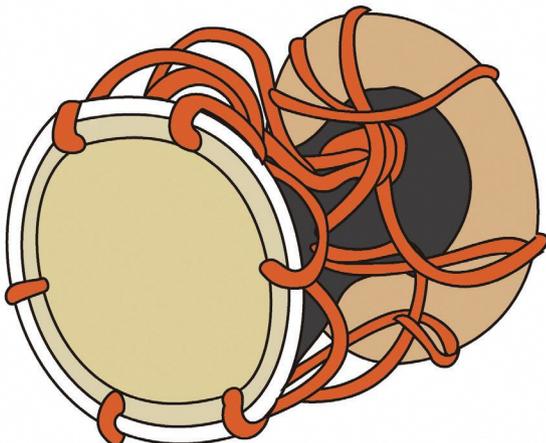
小鼓（こつづみ）

打ち方によって「チ・タ・プ・ポ」という4つの音が出ます。演奏の際は、革に息をかけて湿度を調節したり、裏革に小さな和紙をぬらして貼り、音の微調整をします。



大鼓（おおつづみ）

演奏前に1～2時間程度炭火で乾燥させた革を胴にかけ、調緒を力一杯締め上げます。それにより、小鼓の柔らかい音とは違った、力強く甲高い「カーン」という独特の音が響きます。



太鼓（たいこ）

他の打楽器は馬皮を使いますが、太鼓の場合は牛皮を使います。太鼓の音は基本的に「ツクツク」という「押さえる音」と「テンテン」という「響かせる音」の二種類があります。

